

自己評価（前年度）

※「幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価」のチェック項目を用いて自己評価しています

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価				
データ 分析 表	データ表			データグラフ
	内容	項目数	平均	
	「乳児保育」	15	4.47	
	「3歳未満児保育」	31	3.77	
	「3歳以上児保育」	53	4.09	
	「教育保育の配慮事項」	16	4.44	
	「健康・安全」	29	4.00	
	「子育ての支援」	18	4.22	
	「職員の資質向上」	9	4.44	
	計	171	4.12	
総合 評価	<p>教育保育の理念、方針を基盤に職員が、園児の成長の仕組み（発達過程）とよりよい援助について理解をした上で、職員自身の気づきの振り返りの機会も増え、よりよい意識が高まって来ている。その中で特に養護、人権の重要性を理解したうえで、一人一人の子どもの尊厳を守る対応について、職員間で検証し、話し合いを持ち、振り返りを実施してきた。継続して取り組み、保育の質の向上に繋げていきたい。それとともに、主体的、対話的で深い学びのためにプロジェクト保育を実践しているが、継続して実施する中で保育士各々に迷いがあり消極的な面が見られた。課題として日々学び、互いに質の高い、良い方向へ導くチーム作り、関係性（信頼感・安心感・自尊感情・他者承認）を大切に、園児へのより質の高い援助力を園全体で盛上げ、努め日々研鑽をしていきたい。</p>			

事業計画（今年度の重点目標）

項目	内容
職員・職員の家族との「信頼」の構築	—健全な職場環境の確立— 個々の事務内容を月1回の会議にて把握し、1日1時間の事務時間を有効に使えるよう計画する（月12回）
子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	—自己決定と選択の尊重— 日々の活動記録を検証し月1回自ら振り返りを行うとともに職員間で意見を交えながら検証・改善を行う（年12回）
保護者との「信頼」の構築	—保護者等のニーズの把握・理解— 直接見てもらう機会を作り、発信していく（年2回） 日々のコミュニケーションを持ち、相談にすぐに対応していく（その都度）